**3**　**第三段**　承

○エノモトさんと人魚
浴室にわたしを招き入れる
（秘密の共有）

人魚
潮の匂いが強かった（リアルさ）
このひと、と言いなおした
人魚のそばを離れたくなかった
（執着／魅了はじまる）

エノモトさん
民宿の部屋に連れ帰った
交番に届ける（人扱い）

わたし
拾得物の処理方法（物扱い）

○人魚への執着
気はそぞろ
目が離せない
人魚のそばにいれば落ち着く
五回も欠勤（社会生活に支障）

「行きたくてしょうがない」
←言ったとたん
二人で、争うように、浴室へ

○エノモトさんの異変

エノモトさん
預かってほしい
人魚を海に帰す―知らないふり
浴槽の横から動こうとしない
目に、光がない
黙って睨んでいる
（手放す瞬間に最も葛藤）
←
←真夜中まで
←
突然大きな音
ころがるように出てきた
うわあ、というような声
部屋から走り出ていった

人魚
コップに浮かせた桜の花びら